

【資料2-2】

第3期北海道立美術館等作品収蔵計画 新旧対照表

新 (第3期収蔵計画)	旧 (第2期収蔵計画)																												
<p>前文</p> <p>北海道教育委員会は、昭和48年、道立近代美術館の開館に向け、長期的な作品収蔵方針として「新美術館収蔵作品基本方針」を策定し、系統的・計画的な作品収蔵を進めるとした。</p> <p>その後、昭和57年の旭川美術館設置をはじめ、昭和63年に5館目の美術館として帯広帯広美術館の設置が決定したのを契機として、道立美術館相互の連携と相乗的な機能を高めることをねらいとして、近代美術館においては、それまでの基本方針を継承し、また、旭川、函館、帯広、三岸の4美術館については、各館ごとの収蔵方針を明確にした。「北海道立美術館作品収蔵計画」(平成10年)を策定した。</p> <p>平成10年には、「北海道立美術館作品収蔵計画」が終了し、また、釧路美術館が設置されたことから、これまでの「北海道立美術館作品収蔵計画」からの継続性を考慮し、「第2期北海道立美術館等作品収蔵計画」(平成11年～平成20年)を策定した。</p> <p>このように、道立美術館及び釧路美術館(以下「道立美術館等」という。)は、館や地域の特性を生かした独自の作品収蔵方針をもつて計画的な活動を行ってきたが、この収蔵計画は平成21年3月をもって終了することから、「第2期北海道立美術館等作品収蔵計画」の成果と課題を検証し、新たに「第3期北海道立美術館等作品収蔵計画」(平成21年～平成30年)を策定する。</p>	<p>前文</p> <p>道立美術館が明確な方針をもち、系統的・計画的な作品収蔵を始めたのは、近代美術館の長期的な作品収蔵方針として昭和48年に策定された「新美術館収蔵作品基本方針」である。</p> <p>その後、昭和57年の旭川美術館設置をはじめ、昭和63年に5館目の美術館として帯広帯広美術館の設置が決定したのを契機として、道立美術館相互の連携と相乗的な機能を高めることをねらいとして、全道的・長期的な視点から近代美術館においては先の基本方針を継承することとし、また、旭川、函館、帯広、三岸の4美術館については、各館ごとの収蔵方針を明確にした。「北海道立美術館作品収蔵計画」(平成10年)を策定した。</p> <p>このように、道立美術館各館は、これまで館や地域の特性を生かした独自の作品収蔵方針をもつて計画的な活動を行ってきたが、この収蔵計画は本年度をもって終了することから、これまでの「北海道立美術館作品収蔵計画」との継続性を考慮し、長期的・総合的な視点に立った「第2期北海道立美術館等作品収蔵計画」(平成11年～平成20年)を策定するものである。</p>																												
<p>参考</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 美術館及び芸術館の沿革 (所在地及び設置年) 北海道立近代美術館 (札幌市 昭和52年) 北海道立三岸好太郎美術館 (札幌市 昭和52年) 北海道立旭川美術館 (旭川市 昭和57年) 北海道立函館美術館 (函館市 昭和61年) 北海道立帯広美術館 (帯広市 平成3年) 北海道立釧路美術館 (釧路市 平成10年) 	<p>参考</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平成元年度～平成9年度の収集点数 近代美術館 約570点 旭川美術館 約160点 函館美術館 約450点 帯広美術館 約480点 三岸好太郎美術館 9点 2 美術館・芸術館の沿革 (所在地、設置年) 北海道立近代美術館 (札幌市 昭和52年) 北海道立三岸好太郎美術館 (札幌市 昭和52年) 北海道立旭川美術館 (旭川市 昭和57年) 北海道立函館美術館 (函館市 昭和61年) 北海道立帯広美術館 (帯広市 平成3年) 北海道立釧路美術館 (釧路市 平成10年) 																												
<p>参考</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各館における収集点数 <table border="1" data-bbox="829 147 1481 1115"> <thead> <tr> <th>館名</th> <th>平成10年度までの収集点数 (第1期)</th> <th>平成11年度～平成19年度の収集点数</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>近代美術館</td> <td>3, 257点</td> <td>1, 043点</td> <td>4, 300点</td> </tr> <tr> <td>三岸好太郎美術館</td> <td>247点</td> <td>5点</td> <td>252点</td> </tr> <tr> <td>旭川美術館</td> <td>482点</td> <td>126点</td> <td>608点</td> </tr> <tr> <td>函館美術館</td> <td>1, 522点</td> <td>435点</td> <td>1, 957点</td> </tr> <tr> <td>帯広美術館</td> <td>491点</td> <td>178点</td> <td>669点</td> </tr> <tr> <td>釧路美術館</td> <td>23点</td> <td>65点</td> <td>88点</td> </tr> </tbody> </table>	館名	平成10年度までの収集点数 (第1期)	平成11年度～平成19年度の収集点数	計	近代美術館	3, 257点	1, 043点	4, 300点	三岸好太郎美術館	247点	5点	252点	旭川美術館	482点	126点	608点	函館美術館	1, 522点	435点	1, 957点	帯広美術館	491点	178点	669点	釧路美術館	23点	65点	88点	
館名	平成10年度までの収集点数 (第1期)	平成11年度～平成19年度の収集点数	計																										
近代美術館	3, 257点	1, 043点	4, 300点																										
三岸好太郎美術館	247点	5点	252点																										
旭川美術館	482点	126点	608点																										
函館美術館	1, 522点	435点	1, 957点																										
帯広美術館	491点	178点	669点																										
釧路美術館	23点	65点	88点																										

北海道立美術館等作品収集基本方針

〔総括方針〕

道立美術館等は、本道における芸術文化振興に中心的な役割を果たしてきた。今日、芸術文化は各地に根づき、美術鑑賞は広く愛好されている。学校教育においても美術鑑賞は奨励され、美術館の教育的機能が重要となってきた。その使命を果たしていくうえでも、作品収集は、美術館活動の根幹である。

道立美術館等は、地域性と国際性を基調とする「総合的な近代美術館」としての性格をもち、近代・現代の作品を主要な対象として教育的、美術史的観点にたつた系統的な作品収集を行う。

道立美術館等は、これまでの成果をもとに、コレクションの一層の充実と有効な活用を基本とし、将来の多様な発展への可能性にも目を向け、財政状況も勘案しながら、効率的に作品収集を行うこととする。

〔館別方針〕

○ 北海道立近代美術館

北海道立近代美術館は、新美術館収蔵作品基本方針（昭和48年度策定）に沿って、昭和63年度までには明治以降の北海道の美術、日本の近代美術、また海外の美術として、パスキンとエコー・ド・パリ、およびガラス工芸に焦点をあてて収集を進めてきた。

エコー・ド・パリについては、北海道の美術が自立性を獲得した1920年代という時代的関連から、また、ガラス工芸については、雪や氷などを想起させる自然、風土的関連から収集が進められた。

その後においては、「北海道立美術館作品収蔵計画」および「第2期北海道立美術館等作品収蔵計画」にもとづき、コレクションの充実を図り、また現代の美術にも力をあつた収集に努めてきた。

これら現在の成果とこれまでの課題を踏まえ、今後、以下の作品の収集を進める。

- 1 北海道の美術
北海道の美術のすぐれた作品、また未収蔵作家や収蔵数の少ない分野の作品を体系的に収集するとともに、これらに関連した作品を収集する。
- 2 日本近代の美術
北海道美術の動向に関連した、すぐれた作家の作品を収集する。
- 3 エコー・ド・パリ
未収蔵作家や収蔵数の少ない作家の作品を収集するとともに、関連作家の作品を収集する。
- 4 ガラス工芸
近代以降の国内外のすぐれた作品を系統的に収集する。
- 5 現代の美術
北海道の美術に関連した1960年代以降のすぐれた作家や、多様な分野の作品を収集する。

北海道立美術館等作品収集基本方針

〔総括方針〕

道立美術館及び芸術館（以下「道立美術館等」という。）は、本道における芸術文化振興の中心的役割を担っており、その活動のなかでも作品収集はその根幹をなし、かつ本道の芸術文化活動に少なからぬ影響を与える重要な活動である。

道立美術館等は、それぞれ北海道の地域性と国際性を基調とする「総合的な近代美術館」としての性格を有し、これにたい、近代・現代の作品を対象として教育的、美術史的観点にたつた系統的な作品収集を行う。

道立美術館等は、これまでの実績を基盤とし、長期的な展望に立ち、コレクションとしての量の確保と質の充実を基本とするとともに、将来の多様な発展への可能性にも目を向け、効率的かつ効果的な作品収集を行う。

〔館別方針〕

○ 北海道立近代美術館

北海道立近代美術館は、新美術館収蔵作品基本方針（昭和48年度策定）にしたがって、昭和63年度までには明治以降の北海道の美術、日本の近代美術、また海外の美術として、パスキンとエコー・ド・パリ、およびガラス工芸に焦点をあてて収集を進めてきた。

特にエコー・ド・パリについては、北海道の美術が自立性を獲得した1920年代という時代的関連から、また、ガラス工芸については、雪や氷などを想起させる自然、風土的関連から収集が進められてきた。

また、「北海道立美術館作品収蔵計画」の策定によつて、上記方針を踏まえ、それぞれの充実を図りながら、現代の美術にも力をあつた収集に努めてきた。

これら現在の成果とこれまでの課題を踏まえ、また従前の作品収集基本方針を基にして、質的充実、未収蔵作家や収蔵数の少ない作品の充実を図るとともに、コレクションの特色それぞれの進展を図り、長期的展望に立った収集を進める。

- 1 北海道の美術
明治以降の北海道の美術のすぐれた作家や、未収蔵作家の作品を体系的に収集するとともに、関連作家の作品を収集する。
- 2 日本近代の美術
北海道美術の動向に関連した、すぐれた作家の作品を収集する。
- 3 エコー・ド・パリ
未収蔵作家や収蔵数の少ない作家の作品を収集するとともに、関連作家の作品を収集する。
- 4 ガラス工芸
近代以降の国内外のすぐれた作品を系統的に収集する。
- 5 現代の美術
北海道の美術に関連した1960年代以降のすぐれた作家や、多様なジャンルの作品を収集する。

- 北海道立旭川美術館
道北地域のゆかりのある美術、ならびに、森林資源に恵まれ、木工産業が盛んな地域の造形作品を収集の柱とし、地域性と国際性を兼ね備えた系統的なコレクションの形成を目指す。
1 道北の美術
道北地域のゆかりのあるすぐれた作家の作品を収集するとともに、これに関連する作品を収集する。
2 木の造形
木を素材とした造形作品（彫刻、工芸等）を収集する。
- 北海道立函館美術館
道南地域の美術を対象として系統的な収集を行うとともに、書との関連から文字・記号に関する書と東洋美術を収集する。
1 道南の美術
函館を中心とした道南地域における各分野のすぐれた作品を系統的に収集するとともに、これに関連する作品を収集する。
2 現代美術
文字・記号に関わる美術及び現代の多様な分野のすぐれた作品を収集する。
3 東洋美術と書
鷗亨コレクションを中心に、これと関連する近現代の書及び東洋美術を収集する。
- 北海道立帯広美術館
道東地域の美術を対象とした収集を行うとともに、道内の代表的な版画家ゆかりの地域であることから、過去から現代に至るプリントアートの収集によって今日の複製文化社会への視点を示す一方、農業を基幹産業とする地域の特性を生かした収集を行い、国際性のあるコレクションの実現をめざす。
1 道東の美術
道東ゆかりの代表的な作家・作品を系統的に収集するとともに、これに関連する作品を収集する。
2 プリントアート
近・現代を主とし、国内外の版画を中心として、すぐれたプリントアートを系統的に収集する。
3 西洋の美術
農業を基幹産業とする十勝地域との関連から、農村や田園を描いた西洋の風景画、風俗画を収集する。
- 北海道立三岸好太郎美術館
ユニークな個人作家美術館として、三岸好太郎の生涯の画業を通覧したいという館の期待に応える所蔵作品の量と質を確保するとともに、作品の散逸と死蔵を防ぐため、寄託度の活用も図りながら、適期に効率的な作品収集を行う。
1 未収集のすぐれた作品をはじめ、三岸好太郎の画業の顕彰にふさわしい作品を収集する。
2 特に、三岸好太郎の最晩年に関わる作品を収集する。
3 寄託制度の積極的な活用にも努め、実質的・効率的に収集の効果を上げる。
- 北海道立旭川美術館
道北地域のすぐれた作品を系統的に収集する。また、森林資源に恵まれ、木工産業が盛んな地域の特性に基づいて、木を素材とした造形作品を収集する。
1 道北の美術
道北地域のすぐれた作品を系統的に収集するとともに、これに関連する作品を収集する。
2 木の造形
森林資源に恵まれ、木工産業が盛んな地域の特性に基づいて、木を素材とした造形作品を収集する。
- 北海道立函館美術館
道南の美術を核とし、道南に広く普及している書や東洋美術、さらに書との関連から絵画における文字や記号に着目し、文字・記号に関わる現代美術を収集の柱とする。
1 道南の美術
函館を中心とした道南地域における各分野のすぐれた作品を体系的に収集するとともに、これに関連する作品を収集する。
2 現代美術
文字・記号に関わる各分野の作品を収集する。
3 東洋美術と書
東洋美術と書については、鷗亨コレクションとしての充実を図る。
- 北海道立帯広美術館
道東地域の美術を対象とした収集を行うとともに、道内の代表的な版画家ゆかりの地域であることから、過去から現代に至るプリントアートの収集によって今日の複製文化社会への視点を示す一方、農業を基幹産業とする地域の特性を生かした収集を行い、国際性のあるコレクションの実現をめざす。
1 道東の美術
道東ゆかりの代表的な作家・作品を系統的に収集するとともに、これに関連する作品を収集する。
2 プリントアート
近・現代を主とし、国内外の版画を中心として、すぐれたプリントアートを系統的に収集する。
3 西洋の美術
農業を基幹産業とする十勝地域との関連から、農村や田園を描いた西洋の風景画、風俗画を収集する。
- 北海道立三岸好太郎美術館
ユニークな個人作家美術館として、三岸好太郎の生涯の画業を通覧したいという館の期待に応える所蔵作品の量と質を確保するとともに、作品の散逸と死蔵を防ぐため、寄託度の活用も図りながら、適期に効率的な作品収集を行う。
1 未収集のすぐれた作品をはじめ、三岸好太郎の画業の顕彰にふさわしい作品を収集する。
2 特に、三岸好太郎の最晩年に関わる作品を収集する。
3 寄託制度の積極的な活用にも努め、実質的・効率的に収集の効果を上げる。

○ 北海道立釧路芸術館
 芸術の多様な展開の可能性に配慮し、新たな領域にも視野を広げるといふ観点から、これまで道立美術館では本格的な収集がなされていなかった映像作品を収集の対象とする。また、北海道のなかでも自然豊かな地域に立地することから、自然や地域と芸術との関わりをさぐるコレクションの形成をめざす。

- 1 映像芸術
- 2 写真およびその他の映像メディアによるすぐれた作品を系統的に収集する。
- 3 自然と芸術
 地域と芸術
 全国的・国際的視野に立って、地域と芸術の関わりをさぐるものとし、釧路・根室地域などと関連するすぐれた作品を系統的に収集する。

○ 北海道立釧路芸術館
 芸術の多様な展開の可能性に配慮し、新たな領域にも視野を広げた収集を図る観点から、これまで道立美術館では本格的な収集がなされていなかった、すぐれた映像作品の収集を図るとともに、北海道のなかでも自然豊かな地域に立地することから、自然や地域と芸術との関わりをさぐる収集を図る。

- 1 映像芸術
- 2 写真およびその他の映像メディアによるすぐれた作品を系統的に収集する。
- 3 自然と芸術
 地域と芸術
 全国的・国際的視野に立って、地域と芸術の関わりをさぐるものとし、釧路・根室地域などと関連するすぐれた作品を系統的に収集する。

北海道立美術館等長期作品収集基本計画

〔総括計画〕

所蔵作品の収集に当たっては、作品の量的充実とコレクションとしての質的向上を図るため、基本方針に則り、美術に関する着実な調査研究に基づいた系統的、計画的な収集を行うものとする。

- 1 北海道美術品取得基金による円滑かつ効率的な美術品の取得に努める。
- 2 作品所蔵家等からの受贈・受託に当たっては、各館の収集方針に照らし、所蔵作としての適性を判断のうえ行う。
- 3 収集総括方針をふまえて、多様な芸術文化にも目を向け、幅広い観点からすくられた作品を収集する。

〔館別計画〕

- 北海道立近代美術館
 - 1 北海道の美術
重要な作家や未収蔵の作家の作品、収蔵数の少ない分野の作品を収集する。デザイン、工芸、写真、映像などの分野にも重点をおくとともに、すぐれた中堅、若手作家の作品を収集する。また、北海道を創作の拠点とする道外作家の作品を収集する。
 - 2 日本近代の美術
北海道の美術動向、およびコレクションと関連する、すぐれた作品を機会をとらえて収集する。
 - 3 エコール・ド・パリ
未収蔵作家や収蔵数の少ない作家の作品とともに、1920年代前後のバリエーションを舞台に活躍した関連作家の作品を収集する。
 - 4 ガラス工芸
アール・ヌーヴ期、アール・デコ期以降の海外の近現代ガラス、および現代日本のガラス工芸を収集する。
 - 5 現代の美術
1960年代以降に活躍し、北海道の美術動向と関連した現代作家の作品とともに、多様な分野の作品を機会をとらえて収集する。

- 北海道立旭川美術館

- 1 道北の美術
道北ゆかりの重要な作家や未収蔵の作家を中心に、特に戦後間もない北海道アンパンダン以後の作家の作品や、従来主な対象としてきた絵画・彫刻・版画の他にも写真やデザイン等の分野についても調査を深め、系統的な収集を行う。

北海道立美術館等長期作品収集基本計画

〔総括計画〕

所蔵作品の収集に当たっては、作品の量的充実とコレクションとしての質的向上を図るため、基本方針に則り、美術に関する着実な調査研究に基づいた長期的、計画的な収集を行うものとする。

- 1 北海道美術品取得基金による円滑かつ効率的な美術品の取得に努める。
- 2 作品所蔵家等からの受贈・受託に当たっては、各館の収集方針に照らし、所蔵作としての適性を判断のうえ行う。

〔館別計画〕

- 北海道立近代美術館
 - 1 北海道の美術
従来の計画を引継ぎ、重要な作家の作品や未収蔵の作家の作品を収集するとともに、すぐれた中堅、若手作家の作品を収集する。また、北海道を創作の拠点とする道外作家の作品を収集する。
 - 2 日本近代の美術
従来の対象作家を近代美術館館別計画の「5 現代の美術」で扱うこととし、今後この分野では北海道の美術動向と関連したすぐれた作品を機会をとらえて収集する。
 - 3 エコール・ド・パリ
従来の計画を引継ぎ、未収蔵作家や収蔵数の少ない作家の作品を収集するとともに、1920年代前後バリエーションを舞台に活躍した関連作家の作品を収集する。
 - 4 ガラス工芸
従来の計画を引継ぎ、20世紀のイタリア、オランダ、フィンランド等のヨーロッパのガラス、国内外の現代のガラスを収集するとともに、アール・ヌーヴ期、アール・デコ期の高い作品を収集する。
 - 5 現代の美術
従来の計画のオブジェ・カルートの収集を一段落させ、1960年代以降に活躍し、北海道の美術動向と関連した現代作家の作品を収集するとともに、この時期以降に現れた多様なジャンルの作品を機会をとらえて収集する。

- 北海道立旭川美術館

- 1 道北の美術
従来行ってきた道北の美術を知る上で重要な画家の収集を中心とするのみならず、若手、中堅作家へと収集の範囲を拡大する。
北海道アンパンダン展関係の主要作家、日本画の福井爽人や、道北在住の若手中堅作家の作品の充実に努める。

2 木の造形

木を素材とした近現代の彫刻や工芸等について、重要な作家や未収蔵の作家の作品を中心に収集する。特に現代の美術動向との関連性も視野に入れながら、若手・中堅の作家についても調査を深め、幅広い収集を行う。

○ 北海道立函館美術館

1 道南の美術

従来から行ってきた、道南ゆかりの代表的作家の作品を中心とした収集を継続するとともに、未収蔵の作家や新進作家のすぐれた作品を収集する。
また、函館や道南地域の歴史・風土・人々等と関連する収集を機会をとらえて行う。

2 現代美術

文字・記号と美術との関わりを新たな視点でとらえ、表現様式において文字・記号と関わるすぐれた作品を、現代作家を中心に収集するとともに、近代以前の表現にも目を付けて、ユニークなコレクションを充実させる。

また、現代美術の多様な動向と発展および今日的な表現領域等を視野においた収集を機会をとらえて行う。

3 東洋美術と書

従来からの鶴亭コレクションを中心とした東洋美術と書の収集については、より体系的な観点から各分野の拡充を図る。

○ 北海道立帯広美術館

1 道東の美術

阿部貞夫、居串佳一、久本春雄など物故作家から現在活躍中の作家まで、道東地域の美術作品を地域的・時代的・分野的に幅広く収集する。

2 プリントアート

近現代の版画、ポスターなどのグラフィック・デザイン、写真、その他複製技術を用いた表現など、国内外にわたり各分野のプリントアート作品を収集する。

3 西洋の美術

ルソー、ディアズ、ドービニーらバルビゾン派の油彩画をはじめ、田園風景や農村風俗を主題とした西洋の絵画・版画作品を収集する。

○ 北海道立三岸好太郎美術館

コレクションの中で比較的層の薄かった晩年の作品を中心に収集に努めてきたが、質量ともまだまだ不十分であり、収集可能な作品が明らかになった場合に、作品収集基本方針に沿ってその都度収集する。

2 木の造形

従来 of 道内、道外の木彫、木工芸作品の収集を継続するとともに、海外作家も視野におく収集を行う。

豊福知徳、鈴木実、峯田敏郎、小清水漸など日本の木の現在の造形、現代木彫を代表する未収蔵作家の作品の収集に努める。

国内および道内の木工芸の代表的作家の作品を収集する。また、海外の木の造形作品の収集の拡大に努める。

○ 北海道立函館美術館

1 道南の美術

従来から行ってきた、蠣崎波響、横山松三郎、北上聖牛、野田九浦など代表的作家の作品を中心とした収集を継続する。

2 現代美術

従来から収集を行ってきた書との関連から、表現形式としての文字・記号に関する作品を収集し、美術としての絵画と文字の関わりを新たな視点でとらえるユニークなコレクションをつくる。

なお、引き続きこの視点にたった収集を継続する。

3 東洋美術と書

従来から行ってきた東洋美術、書などの各分野における収集については、より体系的なコレクションをめざす。

○ 北海道立帯広美術館

1 道東の美術

従来から行ってきた能勢眞美、神田日勝、久本春雄など道東地域の代表的な作家を中心に、増田誠、居串佳一、阿部貞夫など未収蔵作家の作品を主とした収集を継続する。

2 プリントアート

従来からの近現代の版画を中心に、国内外のポスター等の印刷美術、写真、造形など各分野のプリントアートの収集に重点をおき、広範で系統的な収集を継続する。

3 西洋の美術

開館以来、西洋版画の一分野として収集を進めたバルビゾン派の美術作品などを核に、田園風景、農村風俗を主題とした西洋の絵画を収集する。

○ 北海道立三岸好太郎美術館

コレクションの中で比較的層の薄かった晩年の作品の収集に努めてきたが、質量ともまだまだ不十分であり、収集可能な作品が明らかになった場合に、作品収集基本方針に沿ってその都度収集する。

○ 北海道立釧路芸術館

- 1 映像芸術
日本現代写真を中心に、国内外のすぐれた写真作品や映像作品を収集する。
- 2 自然と芸術
自然は、古くから美術作品の発想の源泉であり、重要なモチーフである。現代社会において多様化している芸術表現に着目し、芸術と自然の関わりをとりとらえるコレクションを形成する。
- 3 地域と芸術
釧路・根室ゆかりの代表的な作家の作品をはじめ、地域と関連するすぐれた作品を収集する。

北海道立美術館等作品活用基本方針

道立美術館及び芸術館が所蔵する作品は、後世に伝える貴重な財産として保存・保管するとともに、文化振興に資する道民共有の財産として、教育的な配慮のもとに充分活用しなければならぬ。

そのため、所蔵品展などにより道民への鑑賞機会の拡大を図ることにより、作品情報の公開や提供を促進し、広く道民に所蔵作品を紹介するとともに、可範囲で国外も含めた美術館等への貸出を行い、国内外の他機関との交流・連携を通して、美術館活動の充実を図る。

また、道民の美術に関する理解を一層深める教育普及活動および調査研究活動に力点をおくとともに、道立美術館等の連携を密にし、多角的・広域的な利用に努めるものとする。

○ 北海道立釧路芸術館

- 1 映像芸術
日本現代写真を中心に、国内外のすぐれた写真作品や映像作品を収集する。
- 2 自然と芸術
自然の外観、事物、現象、要素などをテーマとした作品を主として収集し、芸術と自然のかかわりをとりとらえるコレクションを形成する。
- 3 地域と芸術
赤穴宏、米坂ヒデノリ、池田良二など釧路・根室ゆかりの代表的な作家の作品をはじめ、地域と関連するすぐれた作品を収集する。

北海道立美術館等作品活用基本方針

道立美術館及び芸術館が所蔵する作品は、文化振興に資する道民共有の財産として、教育的な配慮のもとに、充分活用されなければならぬ。

そのため、所蔵作品を自館において活用することにより、道民への鑑賞機会の拡大を図るため、道民の美術に関する理解を一層深める普及教育活動に力点をおくとともに、他の道立美術館等との連携を密にし、多角的・広域的な利用に努めるものとする。

また、可能な範囲で国外も含めた美術館等への貸出を行い、これら他機関との交流・連携を通して、展覧会など美術館活動の充実を図る。